

## H29 青木村保育園の取組

ねらい	内容（・継続している取り組み ◎本年度の新たな取り組み）
①保小中一貫教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小中学校の児童生徒や教諭との交流保育、体験保育の実施 小学校＝音楽会・児童会祭・運動会などへの参加、 中学校＝読み聞かせのボランティア、保育体験 教職員＝体験保育</li> <li>・丁寧な就学相談の実施と情報の交換（共有）</li> <li>・保小接続プログラムの検証と効果的運用</li> <li>・教育ポイント5ヶ条の推進</li> </ul>
②多様な他者や自然とのかかわり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外遊びを中心にした遊び込み ア、あおきっ子広場の活用…火曜、木曜を広場の日とする。 イ、村内の施設（くつろぎ公園・ふるさと公園・豊受神社など）の活用</li> <li>・祖父母、小中学生、ボランティア、大学生等とのかかわり ア、行事への参加 畑・水田の作業（祖父母）、保護者会作業、読み聞かせボランティア 保育体験（中学生・大学生） イ、レポートあおき（高齢者施設）の訪問（機会の拡大）</li> <li>・ウ、民生児童委員の積極的な行事参加</li> </ul>
③学力・体力向上  (学力・体力向上事業)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体力づくり ア 朝の日課…体操→マラソン（庭を2～3周）→鉄棒→登り棒 イ リトミックや縄跳びなど ウ 散歩 … 青木村の自然や史跡等を教材として</li> <li>◎ 信州型自然型保育認定に向けた取組</li> <li>◎ 運動・生活習慣におけるスモールステップの研究</li> <li>・図書館の利用……おはなし会等事業への参加、図書の貸し出し、推薦図書の紹介</li> <li>・カウンセラーの施設巡回による、支援を必要とする児童へのタイムリーな対応</li> <li>・定住自立圏事業による研修等の機会を活用した保育士の資質向上</li> <li>・ALTの活用… 外国語への親しみと文化の学習</li> </ul>
(評価システムの構築)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・育ちの評価……保育の記録（発達の状況） やったるカード等による記録と評価</li> </ul>
④子どもと向き合う時間の確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>・延長保育での絵本の読み聞かせの実施</li> <li>・子どもと向き合う保育の充実</li> </ul>
⑤一人一人を大切にす教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発達障害のある幼児への支援体制の整備 ア、カウンセラーの定期的な訪問（育ちの確認、職員への指導、相談） 支援の必要な園児とその保護者、双方への支援 イ、発達障害に対する理解（全園児・保護者への啓蒙）</li> <li>・個別支援計画の作成</li> <li>・園内研究会の実施（情報の交換と共有）</li> </ul>

## 青木小学校の取組(H29)

重点項目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・具体的な取組 ◎本年度特に力を入れたい取組</li> </ul>
①保小中一貫教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「あおきっ子教育ポイント5か条」のPTAを主体とした実践</li> <li>・保小の音楽会での交流</li> <li>◎1年生及び来入児に関わって 保小接続プログラム作成に向けての実践（行事等を中心に）</li> <li>◎6年生に関わって 中学校の理科教員による小学校での授業 家庭科における小中連携の模索 中学校での授業体験、中学校入学に向けた中学校校長講話 こまゆみ祭への参加、中学校体験入学の実施（授業、部活動の参観）</li> <li>◎保小中間の連携を密にした移行支援会議の実施 <ul style="list-style-type: none"> <li>・3,4組と中学校C,D組との交流</li> <li>・地区子ども会やPTA地区懇談会の連携した運営</li> <li>・4月・11月の小中合同研修（西留先生、同和教育）</li> </ul> </li> </ul>
②多様な他者や自然とのかかわり	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎生活科、総合的な学習の時間を中心とした青木村を愛する活動 <ul style="list-style-type: none"> <li>・あおきっ子通学合宿（4～6年）</li> <li>・農村体験の実施（4・5年）</li> </ul> </li> <li>◎学校内外におけるあいさつ運動の実施 <ul style="list-style-type: none"> <li>・コムラサキ公演、レポート青木への訪問交流</li> <li>・自然の中で思いっきり走ったり、遊んだりする体力づくり</li> </ul> </li> </ul>
③学力・体力向上  (学力・体力向上事業)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館を使った寺子屋</li> <li>・花まる学習会による思考力向上授業、花まる漢字テストの実施</li> <li>・朝のドリルの時間を使っての花まる学習（各学級担任による実践）</li> <li>・「家庭学習の手引き」の配布、自由課題プリント（漢字・計算）等による家庭学習の充実</li> <li>・「学び合い」を位置付けた授業の実践（追究を支える板書のあり方、ノート指導）</li> <li>◎協働的、能動的な問題解決学習の実践</li> <li>◎身体を動かす遊びやマラソンを中心にした体力づくり <ul style="list-style-type: none"> <li>・体力テストの有効活用</li> </ul> </li> </ul>
(評価システムの構築)	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎子どもの実態をもとに、協働的、能動的な問題解決学習の方向を探る研究 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークショップ型研究会の実施、授業改善に生きる研究</li> <li>・全国学力検査（6年）及び県PDCA事業（5年）CRT（各学年）の実施分析、分析結果に基づいた指導改善のための目標設定と評価検証</li> <li>・PDCAサイクルによる、教師の自己評価指標の作成</li> </ul> </li> </ul>
④子どもと向き合う時間の確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>・諸会合の精選（職員会は月1回で実施）</li> <li>・DCAPサイクルによる反省と来年度の実施計画の作成</li> <li>◎子どもと向き合う時間の充実、水曜日「ふれあい」の時間の有効活用</li> <li>◎児童と共に行う気づきの清掃</li> </ul>
⑤一人一人を大切にす る教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎個別の支援計画の作成 （支援計画をもとに支援会議、連携した支援の実践、専門家との連携、次年度への引継）</li> <li>◎インクルーシブ教育システム構築事業による、合理的配慮を大切にす教育</li> </ul>

	<p>◎インクルーシブ教育についての職員研修システムの構築</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保育園や中学校と連携した就学相談</li> <li>・ 人権教育・道徳教育の充実、食育・読書旬間等による心豊かな児童の育成</li> </ul>
--	---

H29 青木中学校の取組

重 点	内 容（・継続している取組 ◎本年度の重点的な取組）
①保小中 一貫教育	<p>◎「あおきっ子教育ポイント5か条」を基本にした実践 挨拶 家庭学習＋ノーメディアウィークの実施（定期テスト前）</p> <p>◎6年生に関わっての小中連携 中学校体験・中学職員による理科授業・こまゆみ祭見学 小学校家庭科への支援（家庭科室備品用具整備など） 入学説明会・部活動見学・中学校長による講話</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体力向上への取組（あおきっ子の体力分析）</li> <li>・特別支援学級における小中連携 収穫祭（コロッケパーティー）・作品展見学等</li> <li>・地区子ども会、PTA地区懇談会共同開催（年2回会場：青木小）</li> <li>・合同職員研修（4月西留先生研修会・10月人権研修会）</li> <li>・保育研修への参加</li> </ul>
②多様な他者 や自然との関わり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導の重点「心の挨拶」（挨拶週間、車座集会による意見交換）</li> <li>・総合的な学習の時間「アイリスセミナー」（村の素晴らしさに触れ、地域の方々の生き方を学ぶ） 年4回開催 11講座（茶道・ミツバチ・陶芸・そば打ち・里山に学ぶ等）</li> <li>◎学年総合指導計画の見直し</li> <li>・伝統芸能（「義民太鼓」・下奈良本、入奈良本地区「神楽」）の継承</li> <li>・国際交流（マリスタ・サイオン・カレッジとの交流） H28は、生徒3名、教員3名受け入れ</li> <li>・信大文学部学生との交流</li> <li>・職場体験学習（職業講話＋2年村内実施）</li> <li>・防災講座</li> <li>・読書指導 朗読の会</li> <li>・青木協議会の傍聴</li> <li>・進路学習（中3）先輩（高校生）の話、高校（教頭）の話</li> <li>◎高1ギャップ キャリア教育に関わって 村当局の方を招いて、総合的な学習の時間として年に2～3時間（3名程度）講話</li> </ul>
③学力・体力 向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・放課後学習「ゴテラ」（毎週月曜、補充ゴテラ・自主ゴテラ）、定期テスト前「みんなでゴテラ」</li> <li>・ウィークエンドスタディ（週末家庭学習）による基礎基本の定着</li> <li>・漢字道場（国 年8回）</li> <li>・満点プリント・攻略ドリル（英、数）</li> <li>◎スキルアップ授業研修会の実施</li> <li>・「授業がもっとよくなる3観点」に基づいた授業改善・見とどけの質の向上</li> <li>・発言リレー、言語技を中心とした「学び合い」</li> <li>・「全国学力調査」（全学年）、「全国学力学習状況調査」（3年）、県PDCA事業（12年） 実施及び結果の検証→授業づくりへの反映</li> <li>・「青中ウォーミングアップ」（保健体育授業の前に行う体力向上への取組）</li> <li>◎体力面での課題単元重点化</li> <li>◎英語ALTの積極的な活用</li> </ul>
④子どもと 向き合う 時間の確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ノー部活デーの設定（毎週月曜）</li> <li>・部活動外部講師の委嘱 剣道部、バレー部、野球部</li> <li>・学期末の学級の時間の設定（5時間授業）</li> <li>・相談の時間の活用 計6時間 担任対話、生徒読書・ブックトーク （年2回、生徒全員と担任の相談時間を設定。生徒の思いに寄り添った指導の充実）</li> <li>・生徒理解の時間設定（職員会、職員朝会）</li> <li>・諸会合の精選（DCAPサイクルによる行事の反省・立案）</li> </ul>
⑤一人一人を 大切にする 教育	<p>◎生徒理解、発達障がい等に関する教職員研修 発達障がい支援力アップ出前研修</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・インクルーシブ教育の推進（全ての生徒にとってわかりやすい学習環境・授業づくり）</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"><li>・支援会議の実施（予防的取組）</li><li>・心の相談員、スクールカウンセラー、外部機関との連携</li><li>・個別の支援計画、指導計画の作成</li><li>・人権月間（年2回、アンケートの実施、校長講話、人権学習）の実施</li><li>◎道徳教育の推進（全体計画の作成、指導資料の共有化）</li><li>・図書館教育、食育の推進（健康で心豊かな生徒の育成）</li></ul>
--	--